



Title	アナログ報告書とデジタル報告書 : その確執と勝敗のゆくえ
Author(s)	北條, 芳隆
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/14117
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

アナログ報告書とデジタル報告書 その確執と勝敗のゆくえ

東海大学文学部 北條芳隆

デジタル書籍元年？

アップル - iPad - ウェブ、Eメール、写真を体験する、まったく新しい方法。

http://www.apple.com/jp/ipad/ Google

Nゲージ/鉄道...ヨッポ 通販 東海大学 変なところ (だ...だわってみた 私的な考古学 北の考古学 Google アップル Yahoo! Japan Google マップ Wikipedia

iPad

特長 デザイン iOS 4 iPad用アプリケーション ギャラリー ビデオガイド 仕様 [今すぐ購入](#)



iPad

革命的で魔法のようなデバイス。
しかも、信じられない価格で。
48,800円*から。

[新しいTV CM
を見る ▶](#)

[紹介ビデオを
見る ▶](#)

最新のiPadニュース ○○○

指先操作で感動のなめらかさ：YOMIURI ONLINEでは、iPadの基本操作を中心に、設定方法やパソコンとの同期方法などを解説する記事を連載しています。 [さらに詳しく ▶](#)

*http://www.apple.com/jp/ipad/features/ を開く

1. 大学考古学教室の現状

- 研究室に寄贈されてくる「報告書」の収納場所
- 図書館の飽和状態



東海大学文学部考古学資料室の現状



東海大学文学部考古学実習室の現状



東海大学文学部考古学実習室前 地下ピロティの現状

物理的な収容可能量を既に超えている

2. 変わらぬ報告書への欲求

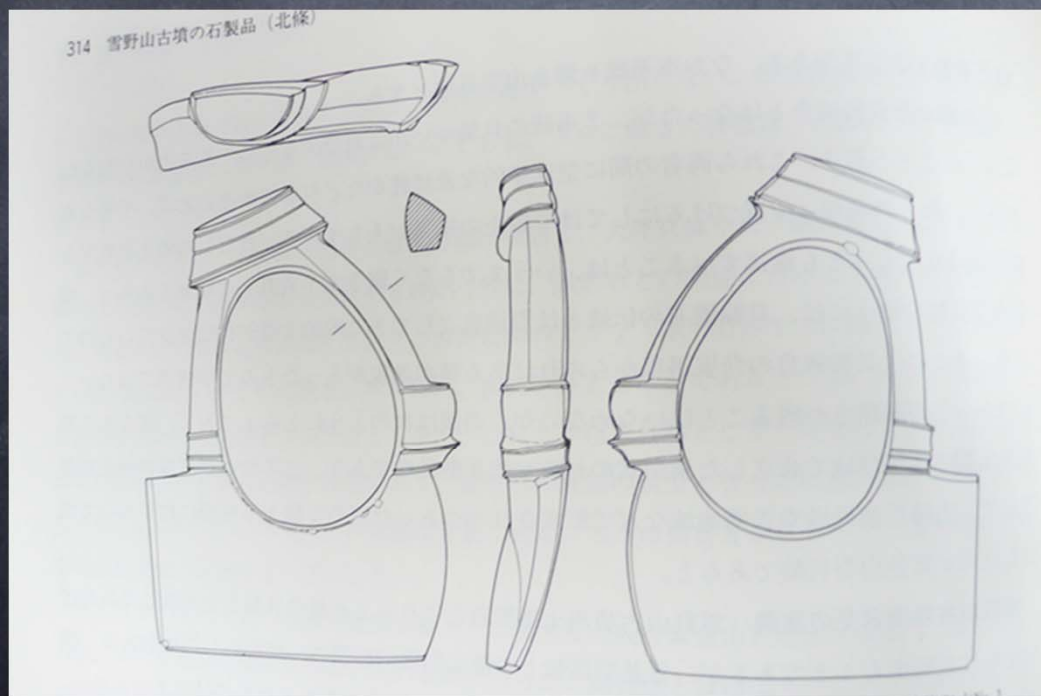
- 発掘調査で偶然出土した類例不明な遺物や遺構の判断を迫られたとき
- ✕切りの迫る原稿執筆時に、手元に持たない報告書をすぐに見たいとき

管理者側の視点と利用者側の視点の交錯

3. 報告書の作り手側にこそ 浸透したデジタル化

- 写真・図版類の完全デジタル化の確立過程
- DTPソフトで報告書の版下を製作するため、印刷以前に、すでにPDFが完成した状態
- 作製コスト面での比類なきメリット
- 詳細な調査データの開示が可能





ロットリングを捨てた経緯
原図を印刷所でスキャナ
ー読み取りになったこと

どんなに丁寧にトレースし
ても線のコントラストは
消える

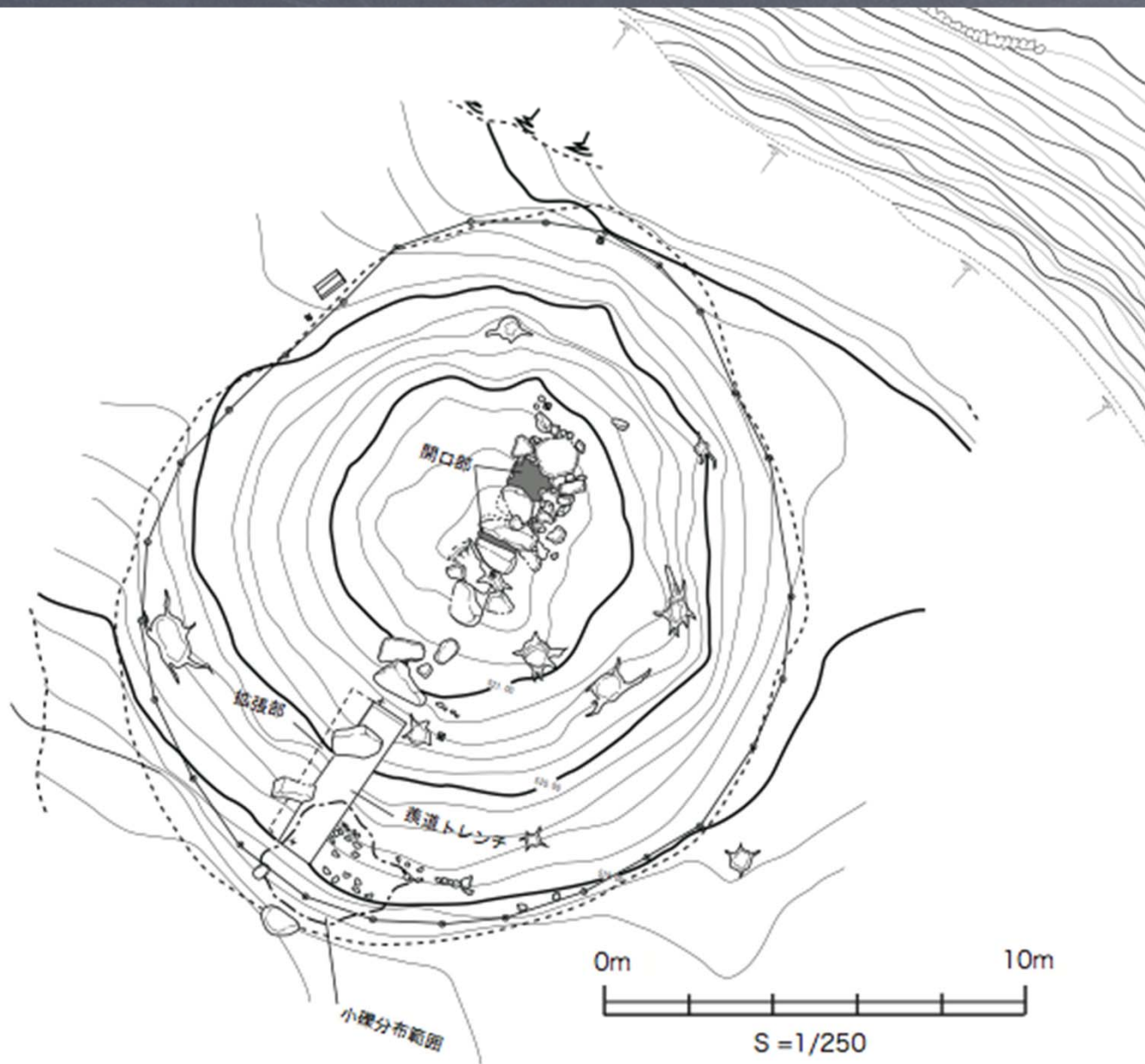
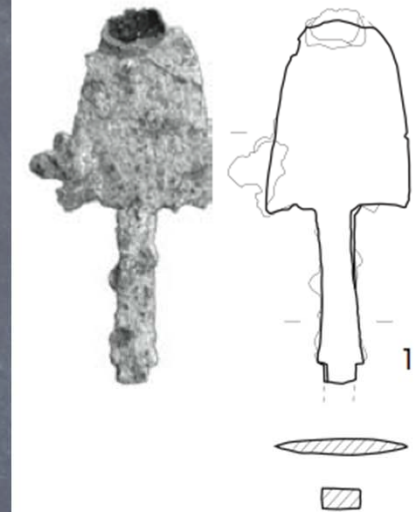
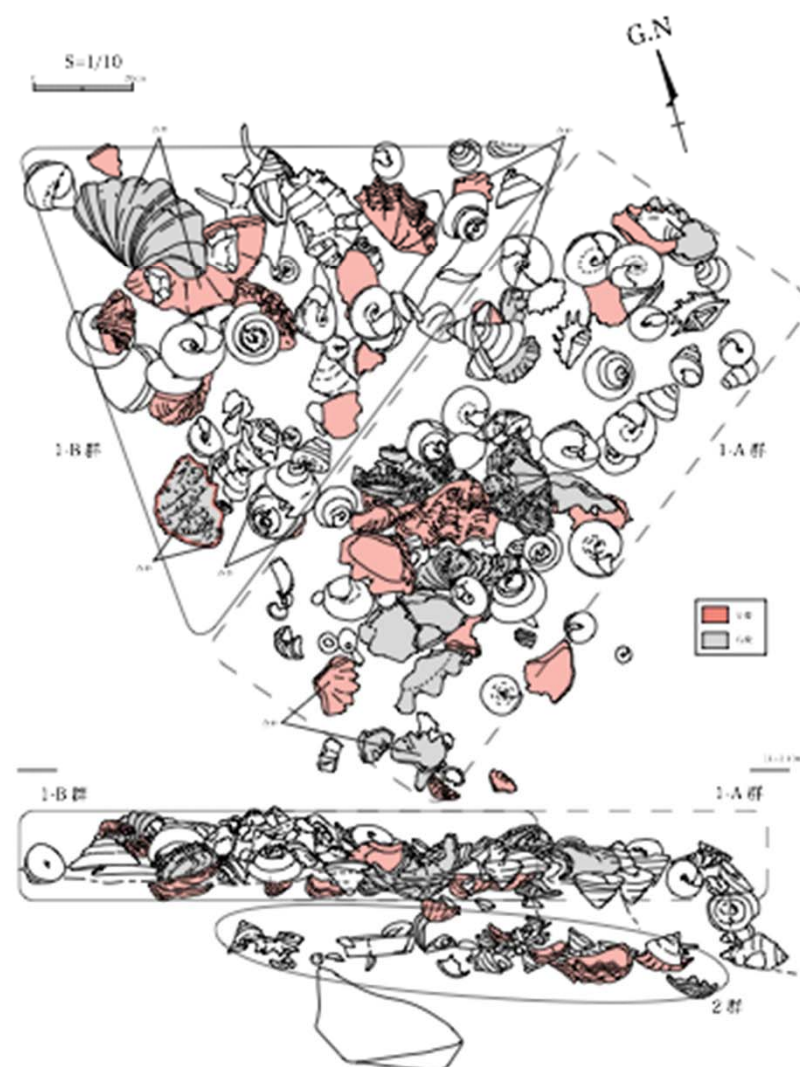
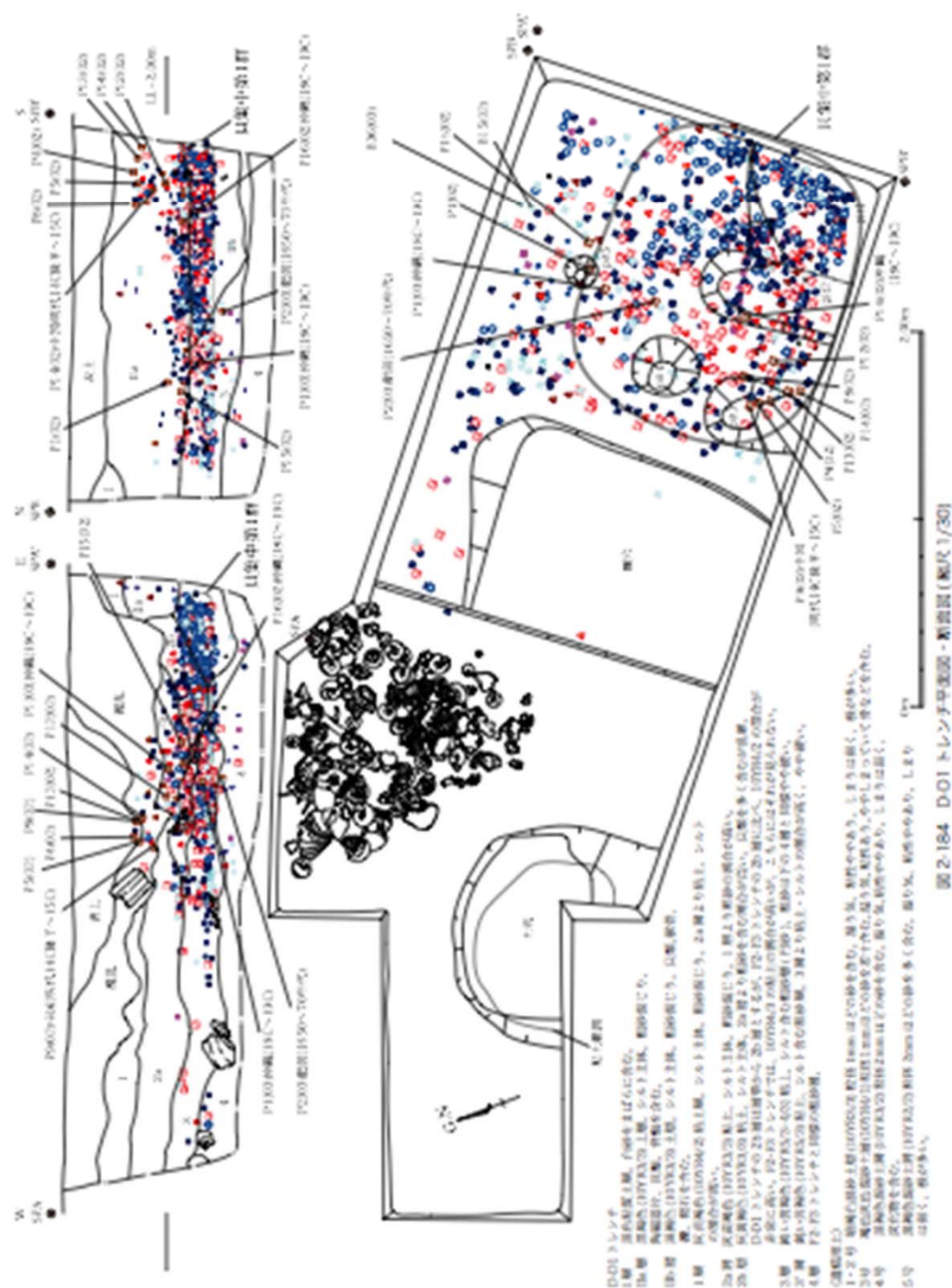


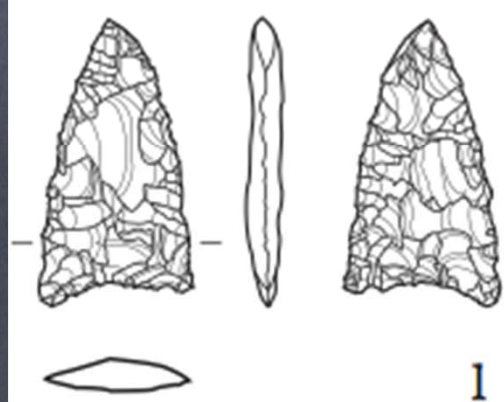
図3：地形・墳丘測量図



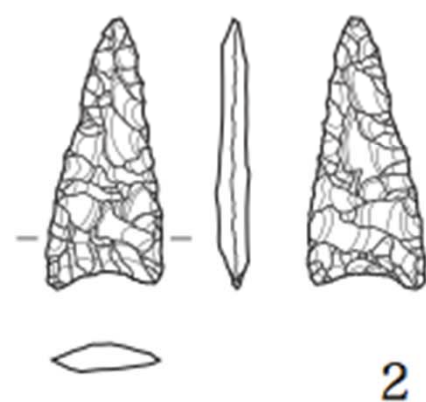
すべてイラストレーターでトレース



複雑な重ね合わせも 簡単に綺麗



1



2



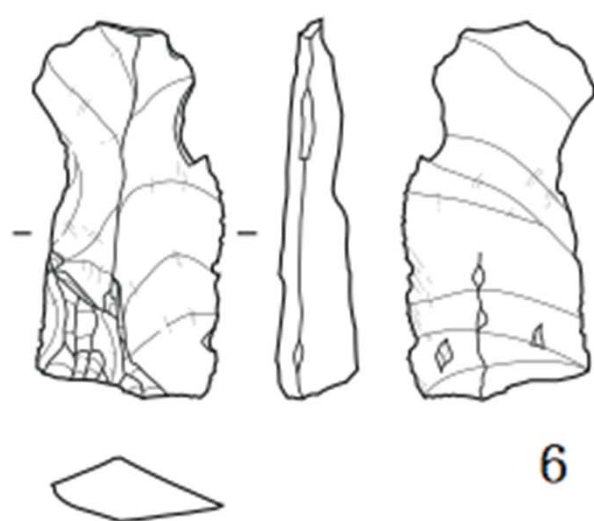
3



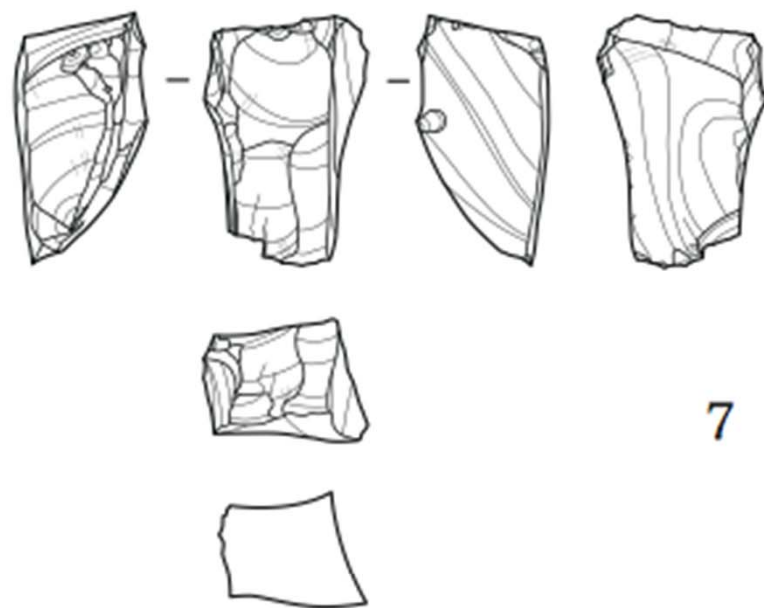
4



5



6

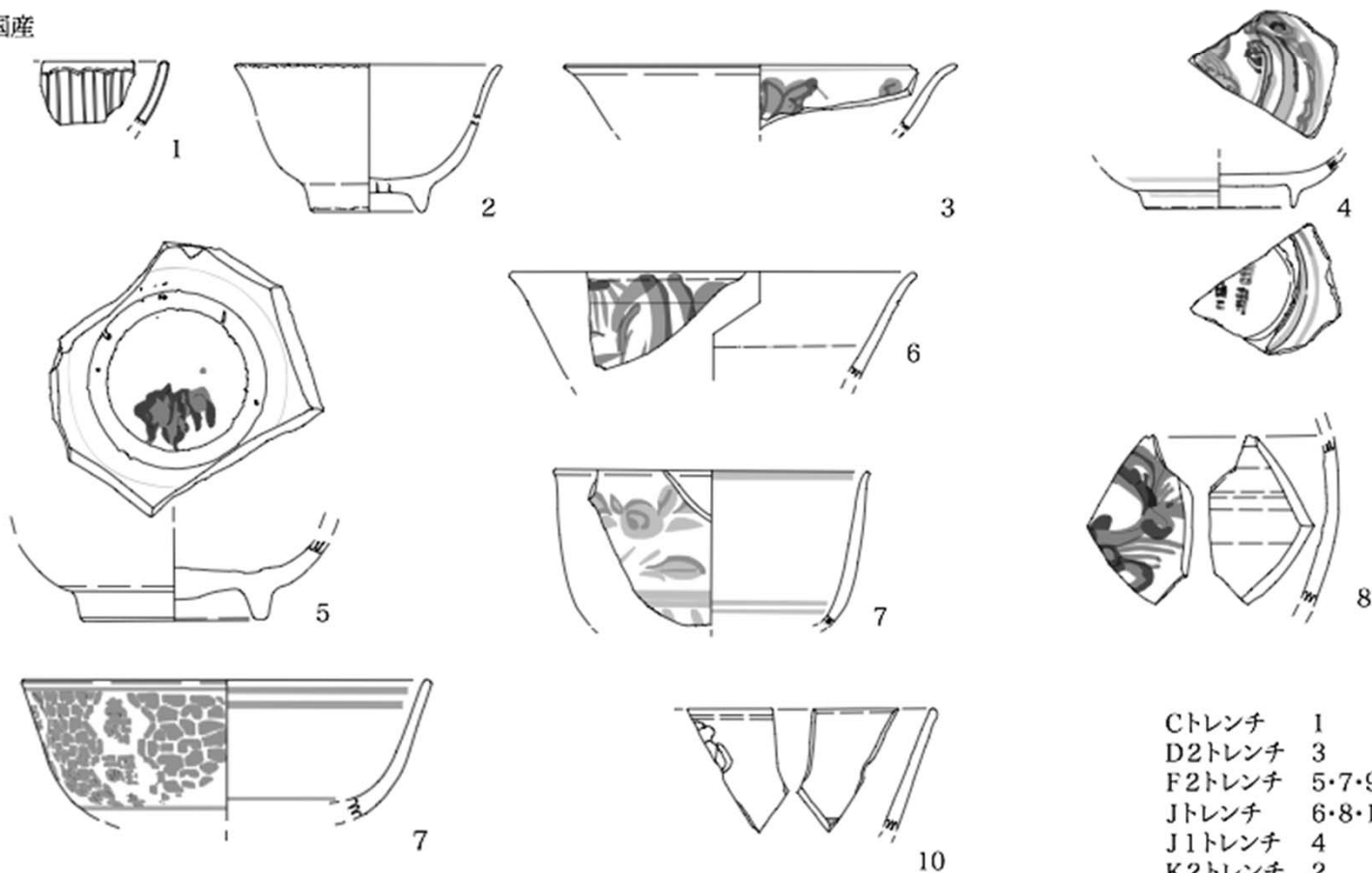


7

0



中国産

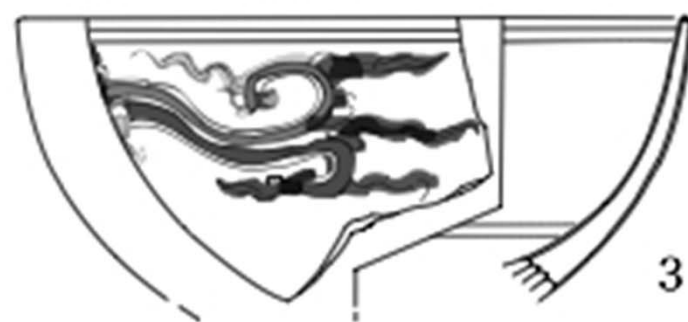
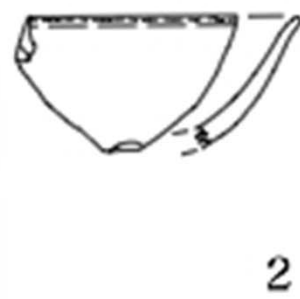
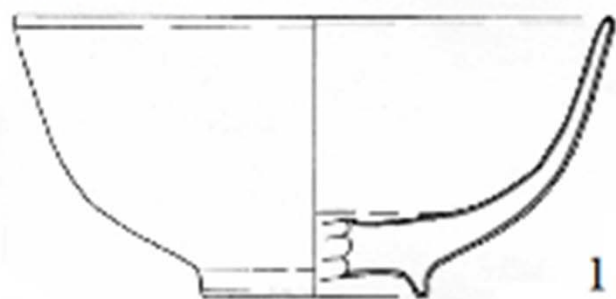


Cトレンチ 1
D2トレンチ 3
F2トレンチ 5・7・9
Jトレンチ 6・8・10
J1トレンチ 4
K2トレンチ 2

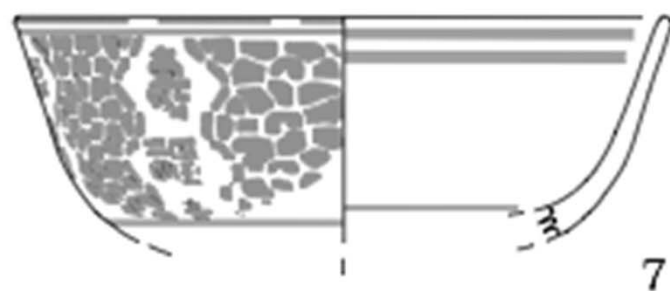
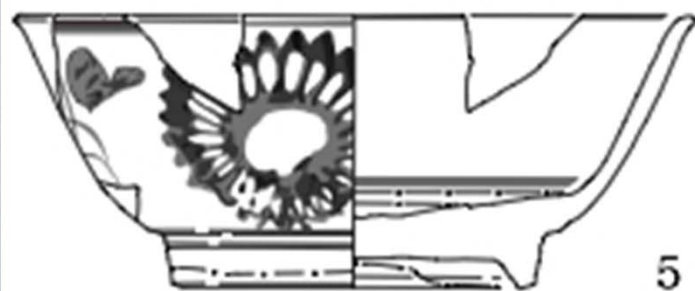
肥前・薩摩・瀬戸美濃



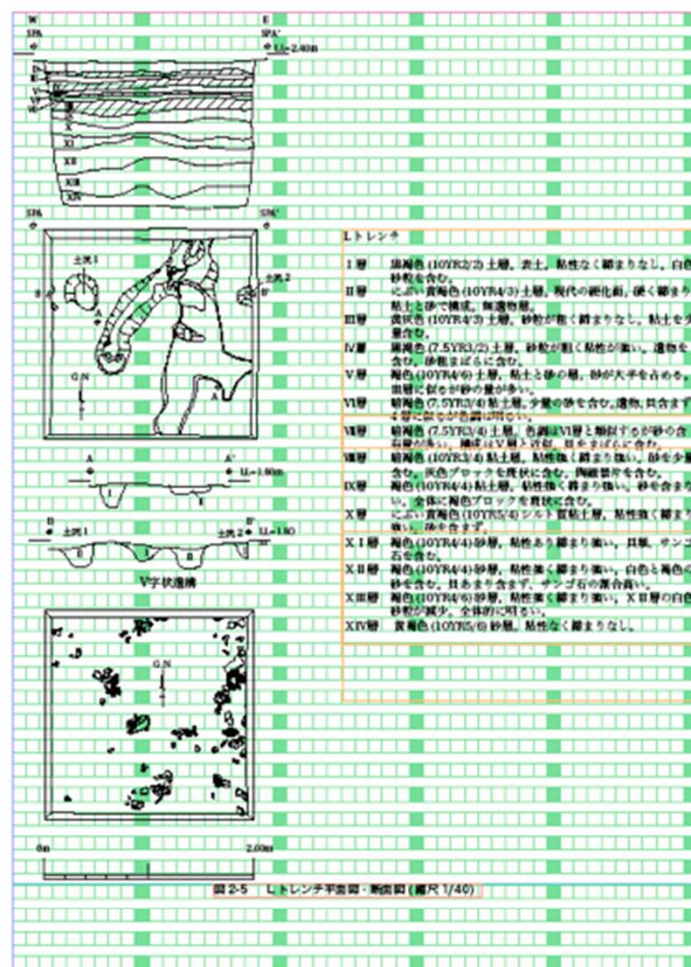
中国産



c



第2章 6



トレンチ

- I層 黄褐色(10YR5/6)粘土。粘性なく締まりあり。白色砂粒を含む。
- II層 黄褐色(10YR5/6)粘土。現代の硬質土。硬く締まり。粘土と砂で構成。無遺物層。
- III層 黄褐色(10YR5/6)粘土。砂粒が粗く締まりあり。粘土と少量含む。
- IV層 黄褐色(7.5YR5/6)粘土。砂粒が粗く粘性が強い。遺物を含む。砂粒をばらばらに含む。
- V層 褐色(10YR4/6)粘土。粘土と砂の層。砂が大半を占める。遺物に似る砂の量が多い。
- VI層 黄褐色(7.5YR5/6)粘土。少量の砂を含む。遺物、貝殻、小骨に似る砂の量が多い。
- VII層 黄褐色(7.5YR5/6)粘土。色調はVI層と類似するが砂の含量が多い。粘性はV層より強い。砂をばらばらに含む。
- VIII層 黄褐色(10YR5/6)粘土。粘性強く締まりあり。砂を少量含む。灰色ブロックを塊状に含む。陶器片を含む。
- IX層 褐色(10YR4/4)粘土。粘性強く締まりあり。砂を含まない。全体に褐色ブロックを塊状に含む。
- X層 黄褐色(10YR5/6)粘土。質軟く締まりあり。砂をばらばらに含む。
- XI層 褐色(10YR4/4)粘土。粘性強く締まりあり。貝殻、サンゴ石を含む。
- XII層 褐色(10YR4/4)粘土。粘性強く締まりあり。白色と褐色の砂を含む。貝殻を含む。サンゴ石の塊を含む。
- XIII層 褐色(10YR4/4)粘土。粘性強く締まりあり。XII層の白色砂が減少。全体的に明るい。
- XIV層 黄褐色(10YR5/6)粘土。粘性強く締まりあり。

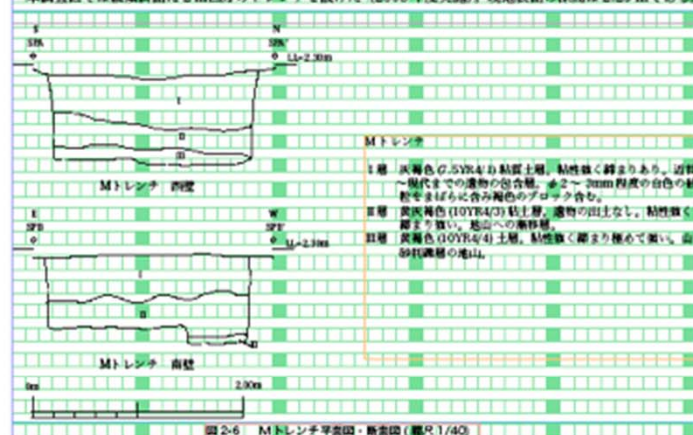
第2章 7

遺物の年代からみて、II層からIII層までの土層の人為堆積は、18世紀代後半頃に実施された可能性が高い。互層状堆積の下層からは、IX層下面を掘り込みとする小規模な円形土坑2基と、二股に分岐する溝1基が検出された。北西側で検出された土坑1は検出面において径32cm、深さ18cmをはかる。また東側面から検出された土坑2は径18cm、深さ12cmである。埋土はIX層と同質の土壌であり、区別できない。溝は北東部から斜めに延びて調査区中央部で収束する掘り込みと、南北に延びる掘り込みとに分岐するもので、前者は径30cm、深さ25cmをはかるV字状の溝であるが、後者は幅30～50cm、深さ6cm前後と浅く、その底面は平坦である。溝の埋土中や掘り込み付近からは21点の貝殻と2点の陶器片が出土した。このうち1点(図2-23.3)は中国産の磁器碗もしくは皿であり、年代は16世紀代と推定されるものであった。このことから本遺構は近世に属するものであり、18世紀代よりは古く、16世紀代以降のものとは判断された。

遺構のベース面となるX層およびXI層には多数の貝殻が角礫と混在する状態で出土した。このことから、本調査区にも貝殻が存在することを確認した。土層は黄褐色(10YR5/6)粘性粘土と砂を含む粗砂であり、貝殻の表面は腐食が顕著で脆弱であった。これらの点において、他の調査区でみられた貝層の厚みとは異なる。なお貝層の分布状況を見ると、上層の溝の部分に空白となる。このことから、先の溝の埋土中から出土した貝層も本遺構はこれら下層の貝層に含まれていたものか、上層の溝の掘削によって造成した可能性が高い。X層下部のトレンチ中央部付近から出土したラグガイ(Sh24)とシラミガイ(Sh100)について放射性炭素年代測定を実施したところ、暦年代に換算して西暦3世紀から5世紀頃の年代が出た(第5章第5節)。したがって本貝層は先島先史時代に属するものとみなされる。なお貝層の下層は砂層ではなく、砂層にいたるまでには粘性砂質土の堆積が50cmの厚さをもって認められた。砂層上面の標高は1.1mである。基本層との対応関係はI層が表土に、II層からIV層までがIX層に、その性格を異にしたが年代的には2層に対応するものであり、X層・XI層が3層に、それ以下が4層に対応するものと判断された。

(2) M-1トレンチ (図2-6)

本調査区では緩傾斜面に2m四方のトレンチを設けた(2003年度実施)。現地表面の標高は2.29mである。



トレンチ

- I層 黄褐色(10YR5/6)粘土。粘性なく締まりあり。白色砂粒を含む。
- II層 黄褐色(10YR5/6)粘土。現代の硬質土。硬く締まり。粘土と砂で構成。無遺物層。
- III層 黄褐色(10YR5/6)粘土。砂粒が粗く締まりあり。粘土と少量含む。
- IV層 黄褐色(7.5YR5/6)粘土。砂粒が粗く粘性が強い。遺物を含む。砂粒をばらばらに含む。

3. 報告書の作り手側にこそ 浸透したデジタル化

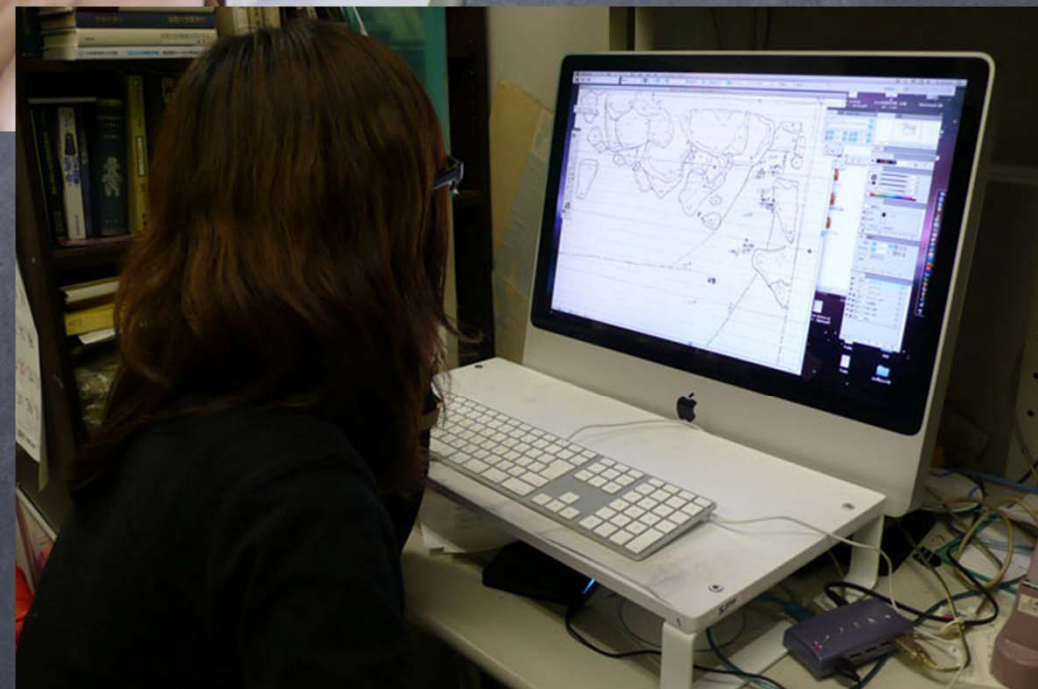
- 写真・図版類の完全デジタル化の確立過程
- DTPソフトで報告書の版下を製作するため、印刷以前に、すでにPDFが完成した状態
- 作製コスト面での比類なきメリット
- 詳細な調査データの開示が可能

Mac OS X desktop environment showing a spreadsheet application (likely Excel) with a Japanese title bar and menu. The spreadsheet is titled "西表島報告書" (Seibishima Report) and contains a table with columns A through P. The table lists various items, including page numbers, titles, and categories. A red oval highlights the right side of the table, specifically the columns M, N, O, and P, which contain page numbers and other identifiers. A large red text overlay is present in the center of the spreadsheet, reading "8の倍数ページごとにカラーページを割り付ける煩わしさ" (The hassle of assigning color pages every 8 pages).

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1	網取遺跡・カトウ貝塚の研究 ～沖縄県西表島所在の先史時代貝塚・近世集落の発掘調査～															
2	通し番号		章・節	カラー			挿図	表	写真	史料	キャプション	章通し番号				
332	331	本文314p	5・9									38	2			
333	332	本文315p										39	3			
334	333	本文316p										40	4			
335	334	本文317p										41	5			
336	335	本文318p										42	6			
337	336	本文319p										43	7			
338	337	本文320p										44	8			
339	338	本文321p										45	1			
340	339	本文322p					図5-8～9					46	2			
341	340	本文323p					図5-10～11					47	3			
342	341	本文324p						表5-10～13				48	4			
343	342	本文325p						表5-11				49	5			
344	343	本文326p						表5-12				50	6			
345	344	本文327p						表5-13～14				51	7			
346	345	本文328p						表5-15～16	写真25			52	8			
347	346	本文329p							写真26			53	1			
348	347	本文330p							写真27			54	2			
349	348	本文331p							写真28			55	3			
350	349	本文332p	5・10				表5-17					56	4			
351	350	本文333p	終・1									1	5			
352	351	本文334p										2	6			
353	352	本文335p	終・2									3	7			
354	353	本文336p										4	8			
355	354	本文337p							写真29			5	1			
356	355	本文338p	終・謝辞									6	2			
357	356	本文339p	終・生息域					表終-1				7	3			
358	357	本文340p						表終-2				8	4			
359	358	本文341p						表終-2				9	5			
360	359	本文342p						表終-2				10	6			
361	360	本文343p						表終-2				11	7			
362	361	本文344p						表終-2				12	8			
363	362	本文345p	終・貝類学名									13	1			
364	363	本文346p										14	2			
365	364	本文347p										15	3			
366	365	本文348p	終・脊椎動物学名									16	4			
367	366	本文349p	巻末図版						巻末図版1			1	5			
368	367	本文350p							巻末図版2			2	6			
369	368	本文351p							巻末図版3			3	7			
370	369	本文352p							巻末図版4			4	8			
371	370	本文353p							巻末図版5			5	1			
372	371	本文354p							巻末図版6			6	2			



トレースはイラストレーター
での
デジトレを推奨中





傍らで同僚は丸ペンでのトレースを指導中
(しかも厳しい) 教育方針の交錯

4. ネット上への公開が容易である、というメリット

- 報告書を簡単に閲覧可能になる
- PDF報告書をそのまま掲載可能
- 専門分野の異なる研究者・市民からの反応

東海大学文学部歴史学科 考古学専攻

[ホーム](#)
[研究室・教員紹介](#)
[考古学専攻で学べること](#)
[関連展示会](#)
[学生のページ](#)
[ダウンロード](#)
[東海大学](#)

考古学研究室や教員が作成した小冊子・コラム・発掘調査報告書などが **PDF** 形式でダウンロードできます (Adobe Readerが必要です)。

アイコンを右クリック「対象をファイルに保存」でダウンロード、左クリックで別ウィンドウで開きます。

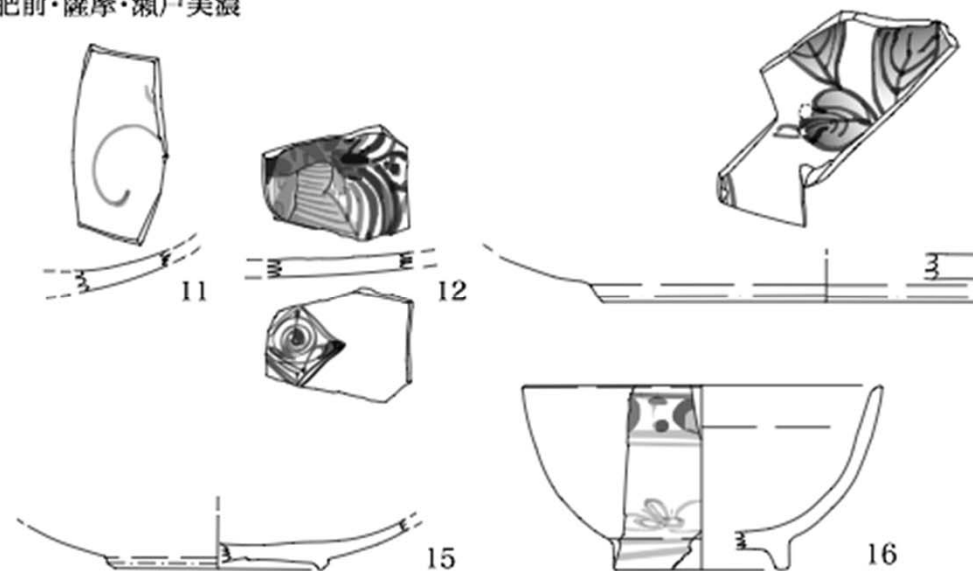
PDF 形式のファイルを解凍するツールは [こちらからダウンロード](#) できます。

種類	タイトル	掲載ページ
初年次向け 配布冊子	良著に学ぼう 2010.春	ホーム>ダウンロードページ (ここです)
北條コ ラム・ 講演資料	関東の前期古墳 (さきたま史跡の博物館講演資料 2010/05/15) PDF 論文の読み方 時間と空間および歴史の所有をめぐる両極性	ホーム>ダウンロードページ (ここです) ホーム>1研>北條芳隆のコラム
調査概報	立岩山チャシ跡遺跡—第3次調査概要報告— 2010 立岩山チャシ跡遺跡—第2次調査概要報告— 2009 孤塚1号墳の調査—第1次調査概要報告— 2009	ホーム>1研>立岩山チャシ跡遺跡の調査 ・古墳の調査
調査報告書	網取遺跡・カトウラ貝塚の研究 2007 PDF 表紙・目次 序章 プロジェクトの概要 第1章 網取遺跡の現況調査 第2章 発掘調査の成果 第3章 カトウラ貝塚の発掘調査 第4章 考察 第5章 資料分析報告 終章 考古学的成果と課題	一括ダウンロードzip 253MB ←見たいところを ダウンロード ※写真図版のみ PDF 形式 他は PDF 形式です。 

挿図 目次

図序-1	調査対象地(網取遺跡とカトウラ貝塚)の位置	1	図2-55	Cトレンチ層位別出土貝種組成(%MNI)	113
図1-1	西表島西部域の遺跡分布	16	図2-56	CトレンチII層出土シャコガイ科殻長(mm)	113
図1-2	網取遺跡周辺地形測量図(縮尺1/2000)	20	図2-57	CトレンチII層出土シャコガイ科殻高(mm)	113
図1-3	網取集落域の状況(縮尺1/1600)	22	図2-58	K1トレンチII層出土貝種組成(%NISP,%MNI)	114
図1-4	ブシマヤシキ周辺の状況(縮尺1/1600)	24	図2-59	K1トレンチII層出土シャコガイ科殻長(mm)	114
図1-5	墓域の配置状況(縮尺1/600)	27	図2-60	K1トレンチII層出土シャコガイ科殻高(mm)	114
図1-6	人骨出土地点・改葬地および他の人骨出土伝承地	30	図2-61	K1トレンチII層出土サラサバテイ殻径(mm)	114
図2-1	集落域におけるトレンチ配置図(縮尺1/500)	32	図2-62	K2トレンチ層位別出土貝種組成(NISP)	115
図2-2	G・Hトレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	33	図2-63	K2トレンチ層位別出土貝種組成(%MNI)	115
図2-3	Iトレンチ断面図(縮尺1/40)	34	図2-64	K2トレンチ貝集中群別出土貝種組成(NISP)	115
図2-4	<クバカー地区>トレンチ配置図(縮尺1/200)	35	図2-65	K2トレンチ貝集中群別出土貝種組成(%MNI)	115
図2-5	Lトレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	36	図2-66	K2トレンチII層出土シャコガイ科殻長(mm)	115
図2-6	Mトレンチ断面図(縮尺1/40)	37	図2-67	K2トレンチII層出土シャコガイ科殻高(mm)	115
図2-7	Nトレンチ断面図(縮尺1/40)	38	図2-68	K2トレンチIII層出土シャコガイ科殻長(mm)	116
図2-8	O1・O2トレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	39	図2-69	K2トレンチIII層出土シャコガイ科殻高(mm)	116
図2-9	O3トレンチ集水橋展開図(縮尺1/40)	41	図2-70	K2トレンチII層出土サラサバテイ殻径(mm)	116
図2-10	集水橋と「ヤンデーヤ」井戸の関係(縮尺1/70)	42	図2-71	Dトレンチ層位別出土貝種組成(NISP)	116
図2-11	FOトレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	43	図2-72	Dトレンチ層位別出土貝種組成(%MNI)	116
図2-12	<貝塚地区>トレンチ配置図(縮尺1/200)	45	図2-73	DトレンチIIa層出土シャコガイ科殻長(mm)	117
図2-13	Cトレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	46	図2-74		
図2-14	E・Fトレンチ平面図・断面図・立面図(縮尺1/40)	48	図2-75		
図2-15	F2トレンチ平面図・断面図(縮尺1/40)	50	図2-76		
図2-16	D1トレンチ集積遺構平面図・立面図(縮尺1/10)	53	図2-77		
図2-17	<集落・クバカー地区>における人工遺物組成 (G・H・I・F・L)	60	図2-78		
図2-18	<集落・クバカー地区>における人工遺物組成		図2-79		
			図2-80		

肥前・薩摩・瀬戸美濃



IVトレンチ 壕は幅3m、深さ1.2mである。内土塁は幅2.5m、高さ0.4mである。外土塁は幅3.7m、高さ0.6mである。土塁を含めると壕は幅6.1m、深さ1.7m、標高の高い内土塁からは深さ2.3mとなる。チャシの東側斜面は比較的傾斜の緩やかであるが、谷の傾斜部に壕を掘ることで急傾斜をつくりだしている。壕底は下半(Ⅲc層)から角度が急になり、漏斗状をなしている。壕底からは炭化物が数点出土している。

IVトレンチの土塁は内外ともに扁平な形状をなしており、壕に面する部分は緩傾斜となっている。盛土はともに橙褐色土と赤褐色土との2層に分層可能であった。

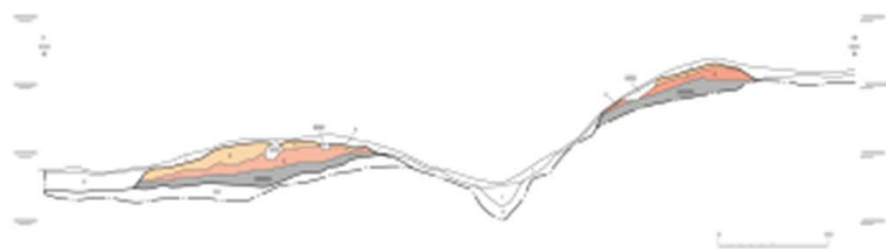
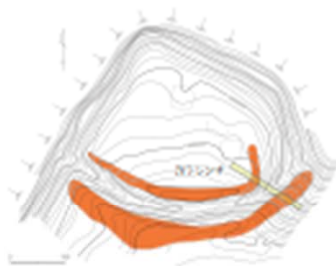


図9 IVトレンチ壕・土塁断面図(縮尺1/100)



写真8 IVトレンチ全貌(西から)



写真9 IVトレンチ外土塁掘削状況(東から)



写真10 IVトレンチ壕掘削状況(東から)



写真11 IVトレンチ壕掘削状況(北から)

証拠のなかに反映されたトし直すという手順を踏
こは、こうした作業へと
代については文献史学の
科日本史専攻教授)によ
調査が開始されている。
宜組み込んでゆくつもり

述を構想中であるのか。
たほうが説得力を増すの
による試験的研究成果の
。どのような意味で生態
かりいただけることと思
本学湘南キャンパスで報
ジュメである。なお北條
重山地域の近世の状況と
の様相とを組み込む形で
この観点のもとに作成し
。2009年度の早い段階

今年度の調査にあたって
工学部から多大な支援を
郎氏・大野仰一氏・田川
デザイン学関連の専門家
たびおこなえたことはき

間である以上、時制を越
は必ずあるはずで、現在
ないにすぎない。3氏と
うな確信を抱くにいたつ
クトが目指す方向性は、

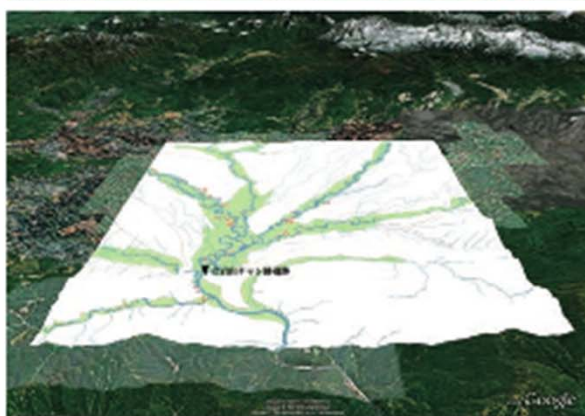
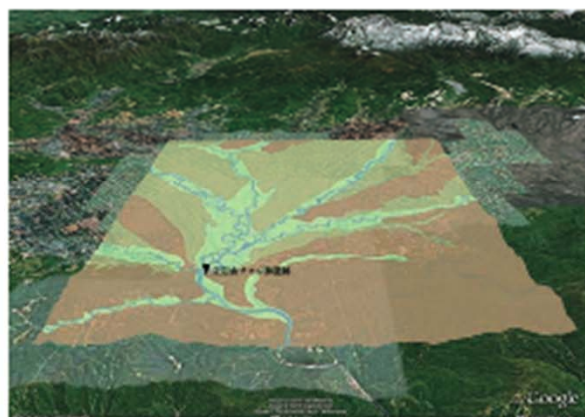


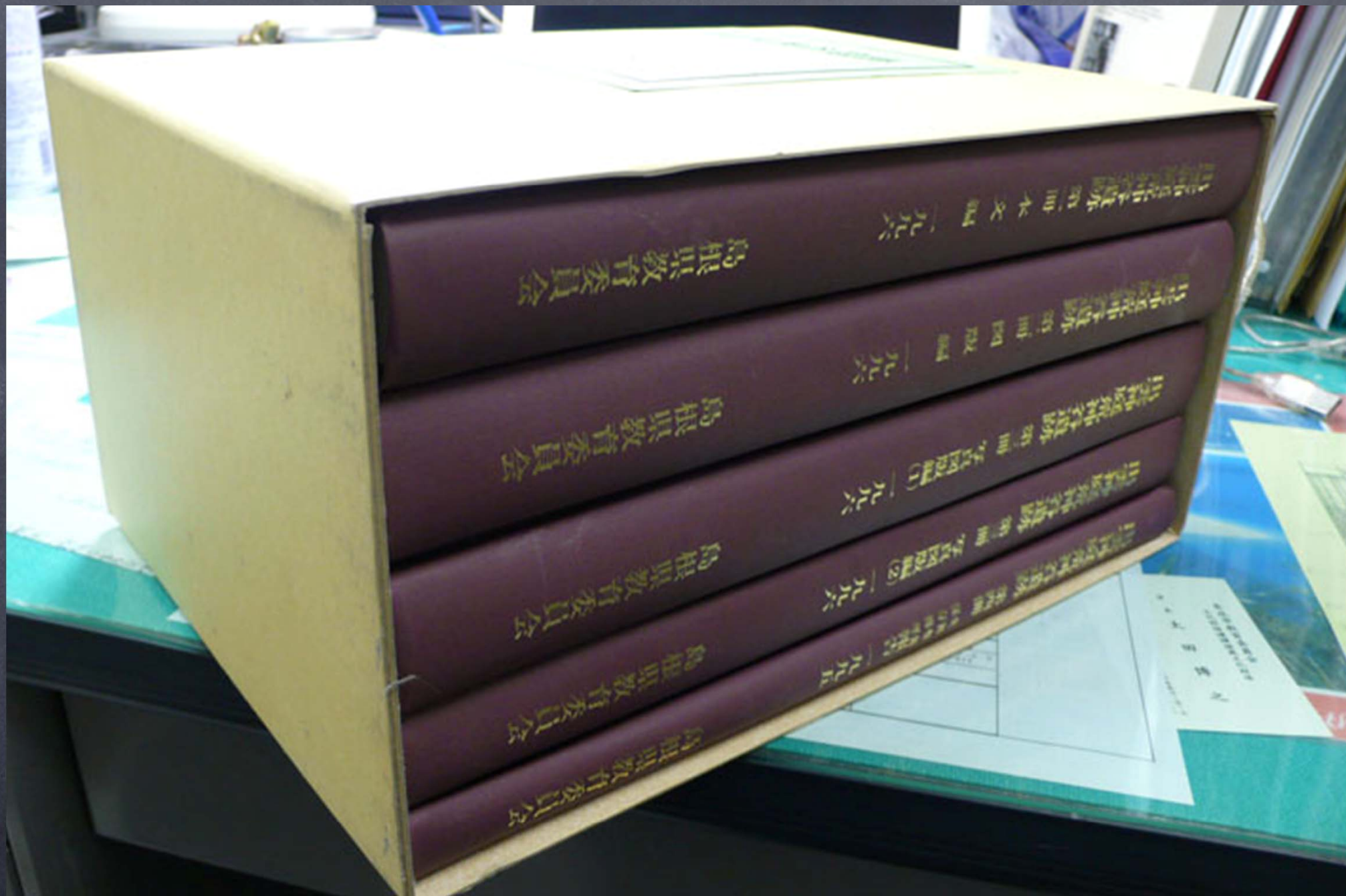
図18 上川盆地における空間利用の歴史の変遷
(上:縄文時代 中:奈良時代-アイヌ 下:近代)

5. デジタル化への反作用

- CDPOM版「報告書」には手が伸びな不思議
- 今後増加すると思われる「誤字・脱字」
- 紙媒体の書籍・報告書に愛着をもつ研究者層



紙のぬくもり、作り手には得も言えぬ達成感



そうは言っても、ここまですると辛い

6. 現在の学生諸君にみる デジタル化への傾斜

- レポートや卒業論文をウェブからコピー・ペーストする学生の増加
- 電子辞書の急速な普及（高校の授業でも推奨）
- 本文をゴシック体で書く学生の増加
- i pad（電子書籍端末）は今後確実に普及する兆し
- 若い世代はデジタル化にまったく抵抗感がない

7. 結論

- 報告書のデジタル化は管理者側の眼からみて不可欠であり、作り手側の眼からみても必然性をもつ
- 報告書に盛り込まれる情報量と情報の質が変わる可能性を秘める(新たな可能性への追求が可能)
- でも、私自身はあまり進んでは読まないかもしれない

現生人類の中年以上には反作用が多く、私たちが
淘汰されたとき、真の明るい未来がくる

終わり